

保険がわかる! か・ん・た・ん・Lesson!

外貨建て保険

ファイナンシャルプランナー

堤 太郎



日本では長く低金利時代が続き、保険業界もその影響を受けています。終身保険や個人年金保険において、契約者に約束された将来の運用利回りを“予定利率”と言いますが、これが年を追うごとに低下し販売が停止される商品も出てきました。そんな中、日本円で積み立てる“円建て”保険よりも予定利率が高い外国通貨で積み立てる“外貨建て”保険が注目されています。

一時払い商品や、積立型の終身保険、個人年金保険等があり、どの商品も共通しているのは支払う保険料、死亡保険金、年金、解約返戻金が全て外貨であるという点です。主に米ドル建てや、豪ドル建ての商品が販売されていますが、いずれも“円建て”商品に比べ高い予定利率となっています。しかし、良くも悪くも為替の影響を受ける為、抵抗を持たれる方もいます。そこでまずメリットとデメリットを明確にしてみましょう。

このように為替に関わる商品特有のメリットとデメリットが存在します。特徴を理解した上で活用できると非常に魅力ある商品です。

為替の影響を受ける外貨建て商品は、為替をうまく活用することで、予定利率での運用益に加え為替利益も生み出すことが可能です。過去のコラムで“変額保険”についてお伝えしました。変額保険は世界の株式・債券での運用で、元本が保証されておらず運用状況によって将来資産が変動するという特徴がありました。それに比べ外貨建て保険は、外貨での元本は保証されています。予定利率も高く、外貨への資産分散という投資的な側面もあり、魅力的な商品です。

では最後に加入の際のポイントをご紹介します。

加入時のポイント

- ①保険料を月払いにする場合、保険料の変動を考慮した金額設定が必要。
- ②円高の状況では一時払いを選択することで為替リスクを削減できる。
- ③保険会社ごとに為替手数料が異なる為、比較検討が必要。

最近では銀行でも外貨への資産分散を積極的に薦めており、ご検討中の方もいらっしゃると思います。現在の日本の金利状況下では、外貨建て保険や変額保険といった投資の側面を備えた生命保険が増えていくと予想されます。商品毎の特徴や仕組みを理解し、ご自身に合った商品選びをしてください。

外貨建て保険のメリット

- ①金利の高い国の通貨で運用するので貯蓄面で有利。
- ②予定利率が高いため保険料が割安になる。
- ③満期時や解約時に円安であれば為替差益が見込める。

外貨建て保険のデメリット

- ①円換算した際の保険金や解約返戻金の金額が確定しない。
- ②為替に応じて円換算した保険料が毎月変動する。
- ③外貨や為替の知識が必要。

知れば知るほど! ナルホド金融経済

今こそ長期・積立・分散投資

ファイナンシャルプランナー

松下 新



先ごろ金融庁が発表した「金融レポート」をご存知でしょうか。金融庁は「金融行政方針」において従来のレポートを刷新し金融レポートとして国民の資産形成について具体的な手法にまで踏み込んだのです。しかも、国内、先進国、新興国の株式・債券の6つのカテゴリーに分け分散投資をするシミュレーションをするなど、長期、積立、分散の三要素が重要であると公表したのです。ある意味これは画期的な出来事です、政府が投資について国民に指南するのであります。我々が常日頃お伝えしている三要素。改めてその重要性を考えていただきたいと思えます。

なぜこのようなレポートを出すことになったのでしょうか。その背景にはやはり現在の世界の金融経済環境があまりにも悪いからにはほかなりません。ちょっとおさらいを試みましょう。

期待されたマイナス金利導入での景気浮揚は世界経済の狭間で身動きが取れず、超低金利だけが長引き、原油価格と消費者物価の低迷は経済を後押しする力に欠け、GDPの主要部分を占める個人消費も物価が低いのに買い控えの状態を生み出しています。イギリスのEU離脱問題(ブレグジット)や目前に控えたアメリカ大統領選挙で各国の経済政策を担う政府は身動きが取れない状況に陥っており、北朝鮮の核問題という地政学まで出てきている始末です。

我が国の一億総活躍の具体策も8月2日に閣議決定された28兆円の経済対策も、円高と原油価格の低迷で萎んでしまい、黒田日銀総裁が意固地になっているとしか思えない2%の物価上昇ターゲットが空しく響きます。

少し詳しく見ますとアメリカは大統領選が目先の最重要項目ですが、8月の雇用統計の意外な悪化で利上げ観測が遠のき、ジャクソンホールでのイエレン連銀議長のコメントで今度こそ利上げを期待した人たちも夢を砕かれました。しかし最も心配なのはGDPの大部分を占める個人消費の低迷です。これから感謝祭、クリスマスと最大の商戦期を迎えますが、個人のお財布の紐がどれだけ緩むかが注目されます。

一方、欧州は依然ブレグジットを巡る不透明感に加え、欧州の南北問題(経済格差)が気になるところです。英メイ新首相の手腕に期待がかかりますが、今のところはっきりとした方針は打ち出せずにおり、アジアも中国の不良債権問題という爆弾を抱え、こちらあまり期待できそうにありません。唯一オーストラリアが他国に比べ元気で、長期金利も再び2%に戻ってきています。

このような状況下では経済は伸びず金利も上がりません。つまり預金(貯金)してもお金が増えないのです。小学生にもわかる話です。そこでついに金融庁が重い腰を上げたのではないかと考えています。当コラムで何度かリスクの分散や通貨の分散が重要である事を申し上げていますが、それは必要不可欠であると重ねて申し上げたいと思います。さらに今はすぐにリターンを求める短期運用は運用商品のなさから銘柄選択はギャンブルに等しく危険です。ここはじっくりと腰を落ち着けて長期的視野に立って資産運用をする必要があります。

「投資というバスに乗ったら降りてはいけない」という教えがあります。最近の例でいうとリーマンショックの暴落で資産を投げ売ってしまった人たちが最も損をしたのです。暴落にもめげずに資産を売らずに保有していた人たちはその後の相場回復でショック前以上に値上がりした相場で資産を増やしたのです。相場は上げ下げを繰り返して上がっていく。それは歴史が証明しています。世界経済が混とんとしている今、じっくりと腰を落ち着けてリスクを分散しながらコツコツと長期に運用することを心掛けたいものです。



我が家の場合、相続税はかかるの？

ファイナンシャルプランナー
深川 恵理子



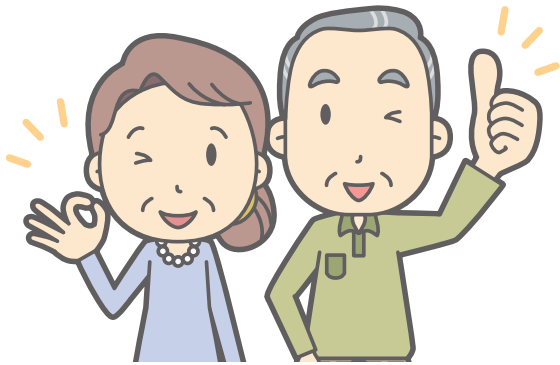
ご安心下さい。

財産を相続したからといって、どなたにも相続税がかかるわけではありません。

相続したことはあるけれど、相続税を払わなかったとおっしゃる方もいらっしゃいます。それは、相続税を計算するときに、財産を相続しても一定金額までは税金がかからない「基礎控除」があるからです。相続税もパートの主婦のお給料が年間103万円までは所得税がかからないことと同じような仕組みになっています。

実は、平成27年1月1日から基礎控除額が引き下げられ、現在はこのように計算します。

3,000万円 + 600万円 × 法定相続人の数



法定相続人というのは、「民法」で決められている相続が出来る人のことを言います。たとえば、みなさんご存知の磯野家で波平さんが亡くなったとすると、奥さんのフネさん、子どものサザエさん、カツオ、ワカメの4人が法定相続人となります。基礎控除額は、3,000万円+600万円×4人=5,400万円となり、波平さんの資産がその範囲なら相続税はかかりません。そして、それを超えれば、相続税の対象となってきます。

そんな場合でも相続税の計算で認められている特例(小規模宅地等の特例や配偶者の税額軽減など)を使うことによって、相続税の申告は必要ですが、相続税の対象にはなりません。

最近では、少子化で相続人の人数も少ないご家庭が多いので、「我が家にはそんなに資産がないから大丈夫。」と書いていても相続税の対象になるかもしれません。これまで相続税とは縁のなかったご家庭にも相続税対策が必要な時代がやってきました。

相続税の負担を減らすための対策を少しずつ始められてはいかがでしょうか。



大人女子の必需品

クラーク
中畑 美絵



私事ですが、以前に真珠専門店に働いていたことがあります。真珠と言うと「冠婚葬祭」、そんなイメージをお持ちの方が多くかもしれません。しかし最近では、雑誌などでスニーカーやデニムと合わせた「カジュアル使い」も多く取り上げられるようになってきていて、私も挑戦しています。使ってみると意外に合わせやすいことが判明!そんな真珠の魅力に惹かれ、黒真珠でも有名なタヒチにも行ってきました。思わず目を奪われるほどの綺麗な海にすっかり魅了されてしまいました。

ところで皆さんは真珠の正しいお手入れ方法をご存知ですか?真珠は接触や衝撃に弱く表面に傷も付きやすいデリケートな宝石です。汗や香水、ヘアスプレーなどの化粧品も変色や光沢の劣化をさせてしまう原因になります。

身に着けた後は柔らかい布で丁寧に拭き、他の貴金属とは分けて保管することが大切です。



真珠は「愛情の象徴」とも「涙の象徴」とも言われます。大切な家族や友人への愛情・故人や遺族への敬意の現れにもなるそうです。成人された娘さんへの贈り物や奥様への結婚30年目(真珠婚式)の贈り物としてももちろんですが、カジュアル使いでワンランク上のコーデを楽しんでみるのもいかがでしょうか。

英語教育の「小4の壁」

代表取締役
榎原 弘之



以前、センター試験廃止に伴う英語教育の重要性をお伝えしました。その記事の反響が大きかったので、今回は「英語教育or中学受験」というテーマで執筆してみようと思います。小学校で英語が必修化され、大学入試で英語の「話す力」が問われるようになる近い将来。子どもに「使える英語」を身につけさせるには、時間もお金もかかります。

そんな中、英語教育では「小4の壁」という言葉が使われているそうです。先日AERAの記事で目にしました。ご存知でしたか？幼少時から英会話スクールなどで身につけた英語力が、小学4年生をピークに落ちていくことを指します。その理由が、「中学受験」。私立中学を視野に、4年生頃から進学塾の受験コースに通い始め、びっしり詰まったカリキュラムの中、英語どころではなくなります。グローバル化する将来、「英語が話せたら就ける職業の可能性が広がる」と思い、英会話スクールなどに通わせていたにも関わらず、4年生になると一変、模試の結果や偏差値とにらめっこ。これを英語教育の「小4の壁」と呼ぶそうです。

英語入試は「狭き門」

もちろん、英語を入試科目に取り入れる中学も増えていきます。首都圏模試センターの調べでは、2016年度に帰国子女枠ではない一般入試に英語を導入した首都圏の

中学は64校。前年度からほぼ倍増です。求められるのは英検4級以上や、面接担当者と会話ができるレベルで、英語で受験するなら、時間をかけて受験のための英語をやらなければなりません。「英語も受験も」と考える背景には、文部科学省が進める大学入試改革があります。2020年度に導入されるセンター試験の後継テストでは、英語で「読む・書く・聞く・話す」の「4技能」が重視されるようになります。これまでの「受験英語」とはまったく異なることが想定されています。さらには、欧米トップ大学を含む世界の大学が入学資格として認める「国際バカロレア (IB)」の国内認定校を、18年度までに200校に増やすという目標もあります。グローバル社会で通用する人材になるためには、英語は話せて当たり前。問われるのはその先の能力だということです。(AERAより一部引用)

英語を得意科目に

とはいえ、英語を話せるようになるのは簡単なことではありません。実際、私の知る英語が話せるお子さんの大半は留学経験があったり、インターナショナルスクールに通っていたりと、周りの環境が整っているケースが多いように感じます。それでも英語教育を継続することで、「英語は得意」という自信が持て、中学・高校・大学受験といずれの場合にも有利になるのではないのでしょうか。グローバル社会で通用するには、英語でのコミュニケーション力が必要です。中学受験をするしないに関わらず、英語でコミュニケーションが取れるようになるには、まず「英語を好きになる」ことが大切のように感じます。



差出人・連絡先

アルシアコンサルティング株式会社

〒251-0023 神奈川県藤沢市鶴沼花沢町2-3 PHビル2階
TEL: 0466-54-8417 <http://www.arxia.jp/>

掲載内容等に関するお問い合わせは各担当営業まで。
禁無断転載 Copyright Two Way Communications Inc.